

ボランティアの心

ひと目千本の梅林 あと一息

花山梅林に植樹を始めて10年、おかげさまで毎年色とりどりの梅の花が、春を運んでくれるようになりました。ボランティア心のアンテナに飛び込んできた地域の課題に、一肌脱こうとみんなで会をたちあげた当初は、ここまで来られるとは思っていませんでした。次々と新しいことにも挑戦、このままあと数年、子どもたちの植樹が続けば、ひと目千本の梅林になって、神戸市一の癒しの郷になるのも夢ではありません。(写真は梅林を整備するメンバー)



これまでこの活動にかかわってくださったみなさんの知恵、そして熱意と惜しみない労力の結果です。年々増える実の収穫に、子どもたち、PTA共々うれしい悲鳴をあげています。

まだまだ社会に貢献したい、高齢化社会をマイナスと捉えない意気込み、この思いがシルバー世

代をボランティア活動に駆り立てているのでは、と思うのですが、世間的には年寄りのヒマつぶしくらいに思われているのが残念です。吹き出る汗や北区の寒風と闘い、辛抱強く作業を続けてくださるメンバーの仕事ぶりをぜひ、見てほしいものです。

私のこれまでのボランティア経験からいえば、指導者が上から目線のケースや、楽しみ、やりがいのない活動もありました。ボランティアの原点は、楽しく長く続けられること、孤独になりがちなシルバーにとって、協働で何かをするという仲間意識が必要不可欠だと思います。さらに、一休みのささやかなお茶代くらいは認められ、材料経費しか許可できないなんて、堅いことをいわない公的助成金がいただければ言うことなしなのです。

他人のために動ける体に感謝して、喜んでくれる人の笑顔を励みに、東奔西走。崇高なボランティア精神を培うべくシルバー世代は今日も行く～。

(徳原尚世・国9期 北区会)

「食・農・環境」リレートーク

「命の源 食と農と環境を考える」と題するリレートークが、10月24日午前10時からシルバーカレッジホールで開かれた。1962年のレーチェル・カーソン著「沈黙の春」や1972年のローマクラブの「人口増加や環境汚染が続けば、100年以内に地球上の成長は限界に達する」との警告が出て以来、「食」「農」「環境」への関心は高くなるばかり。カレッジ学生、卒業生、一般市民ら300を超す人が参加、講師5人のトークに熱心に聞き入っていた。



トークは①環境創造型農業の推進 県農政環境部農業改良課 西村いつきさん②都市の牧場がつなぐ夢 弓削牧場代表 弓削忠生さん③食と農をつなぐ NPO法人ひょうご農業クラブ理事長 増田大成さん④食生活と健康長寿 県栄養士会会長 榊由美子さん⑤食と農と環境を守るために私たちにできること 神戸大学名誉教授 保田茂さん。

トークを聞いた生環18期の鈴木隆美さんは「保田先生のコウノトリ農法に共感、仲間と有機農業を実践している。この農法が豊岡だけでなく、養父、八鹿にも広がっていると聞き、心強く思った」。

同じく生環18期の山田通裕さんは「講師は例年の半分の5人に絞り、内容豊かなトークをじっくりと聞け、満足した」と感想を話した。このトーク会には〈わ〉環境部会の5人が受付と場内整備を担当した。

(広報・永野知己)

奥須磨ウォークラリー大会快調

須磨区会主催の第2回ウォークラリー大会が、10月26日奥須磨公園で開催され、18チーム56人が参加しました。園内の木々は黄、赤に染まり始めており、気持ちの良い風がそよぎます。

9時30分断片的な地図を片手に、12のチェックポイントを探しながらコースを歩きつ戻りつ。ラリーにかける標準時間は90分。長くても短くても共に減点があり、クイズを含む満点は100点。優勝はSC友が丘B(菅田忠志、西原豊さん)で95点、2位は新マジック、3位は〈わ〉本部でした。4人で参加したあんだんてチームの片岡桂子さんは、「楽しいねえ、面白いねえ」と、わくわくしながら「こっちな。いやこっちなやで!」と進み、小気味のよい日差しを浴びて森林浴を楽しみましたと話していました。

